相模原市における新型コロナウイルス感染症の発生状況について

○播磨由利子　金沢聡子（相模原市衛生研究所）

相模原市衛生研究所では、令和２年２月から新型コロナウイルス感染症検査体制を整え、リアルタイム PCR による検査を実施している。８月までの半年間に 6,830 件、6,553 人の検査を行った。この検査結果および市保健所で行った疫学調査の結果から相模原市の発生状況について報告する。

相模原市の新型コロナウイルス感染症は、２月から３月中旬まで、３月中旬から５月まで、６月以降から現在にいたるような流行ピークが３回発生している（図１）。国立感染症研究所に全ゲノム解析を依頼した結果、それぞれ中国株、欧州株、欧州株から派生した株と分かった[1]。中国株を経験した自治体は少ないことから、中国株と欧州株を比較することで相模原市の特徴を表すことができると考え報告する。

中国株と欧州株の年齢構成を示す（表）。中国株では 19 歳以下の陽性者はいなかった。欧州株では、20～59 歳の社会活動が活発な年齢層が流行を作ったことが分かった。また、中国株と欧州株を疑似症と接触者に分け、それぞれの症状の割合を示す（図２）。新型コロナウイルス感染症を疑う症状としては、発熱、倦怠感、頭痛、咳といったインフルエンザや風邪と同じ症状が多く報告された。欧州株では、嗅覚味覚障害が認知されるようになった。また無症状の接触者が 30～40%いることが分かった。

相模原市における新型コロナウイルス感染症は、初期の中国株の流行とそれに続く欧州株の流行があり、流行の中心は中高年から若年層へ、症状はインフルエンザや風邪様の症状に嗅覚味覚障害が加わり、そして無症状が一定割合いることが分かった。

今後も保健所との連携を取りながら新型コロナウイルス感染症の動向に注視し、当市の感染対策に生かせるようなデータの提供に努めたい。

図１.　新型コロナウイルス感染症陽性者数

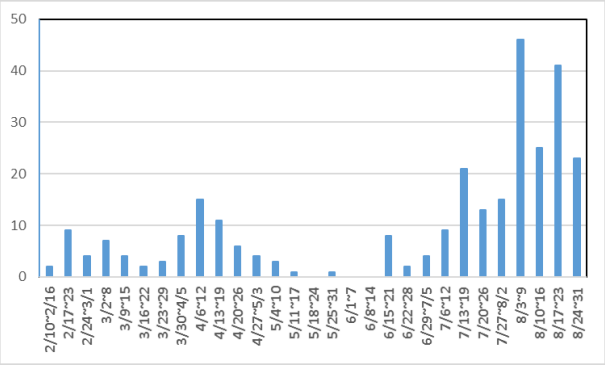
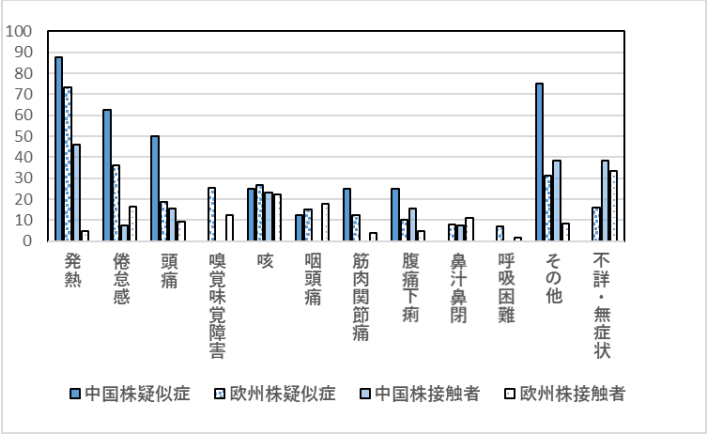


表.　中国株と欧州株の年齢構成

	中国株	割合（%）	欧州株	割合（%）
0～19 歳	0	0	15	7
20～59 歳	13	59	168	80
60 歳以上	9	41	28	13
合計	22		211	

図２.　中国株と欧州株を疑似症、接触者に分けた症状割合（複数回答有り）



参考文献（1）

新型コロナウイルス SARS-CoV-2 のゲノム分子疫学調査２（2020/7/16 現在）

https://www.niid.go.jp/niid/ja/basic-science/467-enome/9787-genome-2020-2.html